

ATS-P Tの改善を求めて 静岡地本と名古屋地本 中部運輸局に要請行動を展開!

JR東海が、今年1月11日から導入したATS-P Tは、多くの問題点を抱えています。照査パターン接近で非常ブレーキが動作し、そのことで取り扱いミスとされ乗務停止とされてしまいます。また、運転台で信号機に対してのパターンが認識できなかったり、運輸区や管理者によって教育や訓練内容が違うなど、職場には不安と混乱が生じ、「ATS-P Tは、保安装置ではなく、不安装置だ」と改善を求める声が上がっています。

この職場の切実な声を受け、静岡地本と名古屋地本は、ATS-P Tの改善のために、6月1日中部運輸局に要請行動を行いました。

中部運輸局鉄道部からは4名の方が出席し、静岡・名古屋地本の代表の意見に熱心に耳を傾け、監理課長から「皆さんから、頂いた意見は、JR東海に伝えたい」という回答を受けました。



【中部運輸局要請行動の参加者】

中部運輸局に要請した主な改善項目

- ★ATS-P Tの照査パターンに接近した場合、常用ブレーキの動作に変更。
- ★ATS-P Tが動作したことに対して、不要な日勤教育を行わない。
- ★運転台で信号機に対してのパターンが認識できる装置の設置。
- ★ATS-P T地上子の増設し、パターンがこまめに更新できるようにする。
- ★ATS-P T要注意駅を減らす。
- ★ATS-P Tの方向転換を自動で切り替わるようにする。



【職場の声を届ける静岡・名古屋地本の代表】